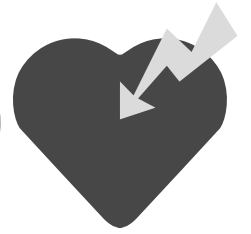


市民体育館に設置しているAED

AED



「心肺蘇生法」と「AED（自動体外式除細動器）」

心臓や呼吸が突然止まった人の命を救う

7月に入り暑さも増す中、健康管理に一層注意しなければならぬ時季となりました。プールや海水浴など、水にふれる機会が多くなり、水難事故などの危険性も高まります。

今月号では、心臓発作などで、正常な心臓が突然止まった人の命を救う「心肺蘇生法」と「AED（自動体外式除細動器）」についてお伝えします。

皆さんに心肺蘇生法とAEDのことを少しでも知っていただき、「まさかのとき」に備えていただければと思います。



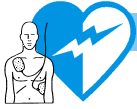
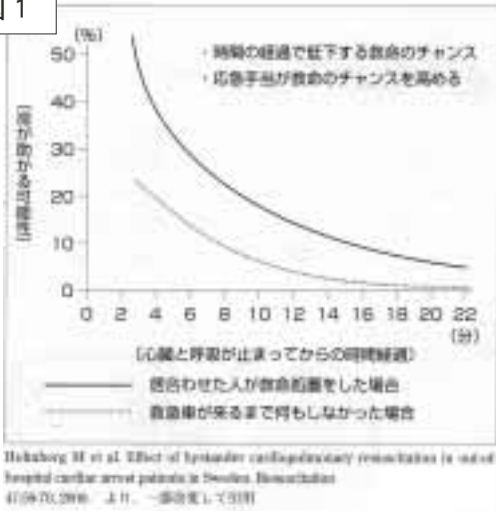


図 1



「元氣だった人が心臓発作や脳卒中などで突然倒れることがあります。こうした場合、心臓がブルブルと細かく震え、全身に血液を送り出すポンプの役割を果たせない状態になっていることが多く、その状態のことを「心室細動」と呼びます。

このような時には、すぐに119番通報するとともに、人工呼吸や胸骨圧迫（心臓マッサージ）による心肺蘇生法やAEDによる電氣的除細動（電気ショック）

突然死を防ぐために

ツクなど、適切な救命処置を行うことが重要です。

心肺蘇生法とは

心肺蘇生法は、胸を強く圧迫する、肺に息を吹き込むなどで、止まってしまった心臓や呼吸の動きを助ける方法です。できるだけ早く、正しい方法で行うことで命が助かる可能性は大きく変わってきます（図1）。

詳しい方法は、4ページからの「救命処置の流れについて学ぼう」で説明します。

AEDとは

AEDは、傷病者の心電図を自動解析し、心室細動等かどうかを見極め、電気ショックを行うことができる医療機器です（図2）。

心電図の波形から、心室細動を取り除くこと（除細動）が必要かどうかを高い精度で判断する機能を持ち、除細動が必要な場合に限り、通電操作を音声で指示するため、誰でも簡単に確実な操作を行うことができます。

救命のフロー

心臓や呼吸が突然止まった人の命を救うには、「早い119番通報」「早い応急手当」「早い救命処置」「早い救命医療」が重要であり、これらをうまくつなげて命を救うのが、「救命のリレー」です。

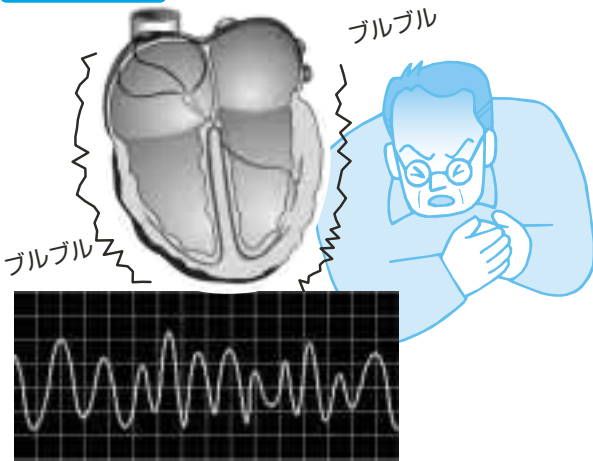
そばに居合わせた皆さんの適切な処置が、命を救うことにつながります。正しい知識と方法を学び、「まさかるとき」に備えましょう。

図 2

正常な波形



心室細動



心室細動の波形

電気ショック (AEDを使用)

